

## 6月議会終了 閉会中に市庁舎設計など議論

6月議会が終了しました。国会でも有名になった「閉会中審査」が適宜おこなわれます。

2022年完成予定の新市庁舎の設計・広域ゴミ処理施設建設が主な議論です。これに加えて「市民病院の経営」「西友跡地」をテーマに載せようと奮闘しています。

### ●市庁舎はシンプルでいいのでは

市庁舎のコンセプトが迷走しています。円を基調としたレイアウトや議会棟の独立、「通り抜けのみち」というコンセプトには疑問を感じます。加古川市庁舎のような「四角く高い」建物でいいのではないのでしょうか。凝った建物を作るとそれだけ建設費や維持費などが高くなります。もともと「災害に備え、危険な建物を早急に建て直そう」というコンセプトの施設です。シンプル・簡素な施設で十分ではないのでしょうか。

また「通り抜けできる」と言っても、駅がそばにあるわけでもなく、歩行者も少ない中でのコンセプトには疑問が残ります。

### ●西友跡地、耐震改修など先のビジョンが見えない

西友跡地の開発が迷走しています。大規模改修を予定していましたが、耐震の関係などで課題があり、店舗と開発業者の関係もよくないようです。一部店舗は「先が見えないから」と撤退を決意したそうです。高砂市も開発業者とも対話して先の見通しのある開発計画を立てるべきです。

■沖浜平津線小松原校区（いわゆる北条街道、新幹線より北側）は8月末に完成予定。



## 6月議会 国民健康保険事業の県への移行で質問予定



6月8日よりスタートする6月議会では諸課題の他、一般質問で「国民健康保険事業の県への一元化」を取り上げる予定です。2018年4月より県に一元化されますが、医療費の状況や納付率、自治体からの繰り入れ金額により保険料が変化します。秋には料金の試算が示され、来年3月に市議会で保険料が決定されます。こうしたスケジュールを示して、市のできることを議論します。

### ●石炭火力発電所増設は手続き延期へ

高砂市で石炭火力発電所50万トンを120万トンに増設する計画が進行中でしたが、4月に突然会社が手続き延期を表明。中止か、手続きをどこかで再開するのか、注目です。また、エネルギー産業で仕事づくりをする対案も重要になってきます。やっぱり節電と再生可能エネルギー促進で雇用も生み出す方向が重要です。

### ●私の中高時代の部活は…将棋部です

藤井4段がプロデビュー以来30連勝をしたことをきっかけに空前の将棋ブームです。私は体格がいいせいか「何か部活をされていたのですか」と言われるのですが、究極の運動音痴で運動部に一度も所属したことがありません。「将棋部です」というとよく驚かれます。（ちなみに大学時代は新聞部でした）地味という印象だった将棋にやたらとスポットがあたっている毎日ですね。

私たちには常識である用語や習慣がいちいちワイドショーで取り上げられるのもびっくりでした。例えば「感想戦」という習慣があります。激闘を繰り広げた末の投了後にすぐに「ここはこう指したら」と冷静に振り返りを行います。政治の世界でもそんな習慣があればいいんですけどね。

## 3月議会 新教育長に一般質問 道徳の教科化、学力向上

3月議会では市政全般について議論すると同時に新教育長に教育理念を質問しました。

「幸福な6年間」と名付けた民主・安倍自民の地方への配分や好景気で豊かだった地方財政も国の方針で厳しくなりそうです。

そんな時こそ「教育・福祉」といった「人」への重点投資が重要です。法律改正で「教育委員会委員長」と「教育長」の役割を併せ持つ存在となった「新教育長」に教育理念をただしました。

### ●法と道徳はどう違うのか（一般質問より）

・高砂市は中学校の一部の教科で全国平均点を下回ります。学力向上に向け、平均以下から平均以上に伸びた大阪府茨木市のような学力向上施策は

・学校現場の教職員の多忙さを解消する方策に力を入れるべきではないか。例えば、再任用職員を活用した「学校事務員」復活は

・「道徳」の教材には組体操に失敗してケガしても、事故原因究明より「相手を許すべき」というような「学校内道徳」を法より優先させるようなものもあります。

「法と道徳」は重なっていますが異なる社会規範です。一般社会規範である法を並行して教えるべきでは。

### ●グローバルグリーンズに参加

3月議会終了後、グローバルグリーンズ（緑の党世界大会）に参加。世界的に広がる「分断と憎悪」の政治に対して世界のみどりのネットワークで対抗しよう、とイギリスに世界の緑が集合しました。詳しい報告は後日行いますが、世界の自治体議員との交流など、意義ある議論ができました。1年間で一番重要な



## 3月議会奮闘中です 消防署パワハラ事件など



3月議会真っ最中です。消防署のパワハラ事件、工案家周辺開発の数々の疑問、市内の全幼稚園の廃止（こども園化）方針、バラマキと国レベルの経済失速で悪化した財政など論戦は続いています。3月28日まで議会です。

### ●消防署のパワハラ事件

消防署内で起きたパワハラ事件を市に報告をせず、市も適切な時期に議会に報告をしていなかったとして議会が空転しています。

2015年と昨年に同じ人物が繰り返し起こしたパワハラ事件に対し、「消防署内部での処理」で済まそうとしているかのような対応が行われていました。さらに議会答弁でも、あたかも被害者の側に問題があるかのような答弁が続き、私や他の議員の指摘により答弁修正や撤回が相次ぎました。

### ●将来負担比率が悪化

中期財政計画より少し長いスパンで財政を見る「中期財政見通し」で「将来負担比率」

が大きく悪化することが判明しました。2026年度には190.5という大きな数字が示されています。これは財政調整基金（貯金）の取り崩しの一方で、新市庁舎や給食センター、治水対策などの大型事業が相次ぐためです。

「削る」議論を放棄し、「幸福な6年間」に安住してきた登政権の財政運営が問われてきます。

### ●施設の床面積を減らす「個別計画」は？

施設の建て替えや修繕の維持管理費を削減するためには、「施設の統廃合」を議論せざるをえません。この「施設の床面積を減らす」ことに登政権は極端におびえます。例えば個別計画を作るめどすら立っていません。

専門家の知恵も借りつつ、市民との徹底した議論しか方法はないと思うのですが。